

宮崎県では、畑地かんがいを積極的に利用して営農を実践している達人を「畑かんマイスター」として委嘱する制度をH24年度から新設、大淀川右岸地域においては、清武町の中邨誠さん、田野町の川越清一郎さんのお二人に活動をお願いしています（県内では20名が活動中）。

(株) ローソンファーム宮崎 代表取締役 中邨誠さん

父親が代表を務める宮崎なかむら農園で露地・ハウス日向夏、マンゴー、露地野菜を栽培していましたが、平成25年1月に(株)ローソンファーム宮崎を設立し施設きゅうり専作の経営を開始しました。



施設・栽培の概要

- ・ 清武町杓掛のほ場2カ所に低コスト耐候性ハウス5棟77aを新設。
- ・ 外張はP0フィルム、内張は保温性LSスクリーン（Svensson社製、ポリエステル素材）を使用。
- ・ 抑制栽培＋半促成栽培の年2作。摘芯栽培。
- ・ 苗は全てJAより購入。5.4m間口に3ベット、株間50cm、1条植え。

契約栽培を支える収量・品質の安定化

- ・ 時間タイマーによる自動かん水や外内張りとも自動開閉を導入。省力化を図り、きゅうりの収穫・手入りに集中できるようにしています。
- ・ 点滴かん水チューブを1ベットに4本片道設置。各チューブに



2系統の電磁弁

コックを取り付け使用本数を調整することで、気象、きゅうりの生育状態や根域の広がり、土壌水分状態に応じたきめ細やかな肥培管理が可能となっています。

○5月晴天日はチューブ4本全て利用しかん水時間10分（約4ℓ/株）を1日あたり1回もしくは2回実施しています。

かんがい水利用の工夫

- ・ ハウス横に50tと10t貯水タンクを設置、かんがい水加熱装置を整備し水温確保ができるようにしました。
- ・ 貯水した水はポンプにて各ハウスへ2系統で配水しています。



ドサトロン比例式液肥混入器

- ・ ディスクフィルターをタンク貯水前、液肥混入前と後の3段階で設置しています。液肥混入器、フィルターは2列並列設置し、安定した水利用が可能となっています。

○春季の追肥はかん水と同時にトミー液肥035を500倍で利用しています。（1回かん水あたり窒素約0.7kg/10a）



ネフコム社「ストリームライン 80」ドリッパ°-間隔10cm



50t 貯水タンク

初めての施設きゅうり契約栽培を終えて

- 目標出荷量50tを達成できて一安心しました。
- 大企業ローソンの鋭い経営感覚や全国のローソンファーム代表との交流がとても良い刺激になっています。
- 当面の課題としては従業員全体の技術向上を考えています。